

エゾサンショウオ

2010年10月5日。澄川の沢での4橋目の架設工事中にでてきたエゾサンショウオです。それ以前にも基地北側の湿地で見たことがあります。北海道には他にキタサンショウオが釧路湿原の固有種として棲息しているようですが、エゾの方は日本固有種で全道に広く分布しているようです。筆者も積丹美国の森でも出会ったことがあります。

エゾサンショウオは両生類で体長は11～19cm、体色は黒味の強い褐色です、水底の土にたいしての保護色です。小さな虫やミミズなど土中や水中に棲む小さな生き物を狩って食べるようです。形はトカゲに似ていますが動きはすこぶる鈍く、捕まえるのに苦労はありません。一時澄川の沢に天敵のアライグマの痕跡があり畏をかけたこともありますが、2012年時点ではタヌキの追われていなくなった気配なのでエゾサンショウオもおびやかされなくなっているでしょう。早春の雪解の水たまりにエゾアカガエルと同じ時期に産卵します。カエルの卵は塊状ですが、サンショウオの卵はチューブ状なので区別は容易です。密生すると共食いをするといわれていますので、幼生は自身にそっくりなオタマジャクシをも狩っているのでしょう。動きは鈍でも待ち伏せ方式でいざ獲物に食いつく時は目にもとまらないアクションです。

第4木橋はリヤカーを渡すことができる幅をもたせてあります。この橋から左岸側の材木搬出が幾分楽になりました。木造なので防腐処理が完全には出来ないうらみがあり、耐用年数はせいぜい5年です。すぐに架け替え時期がくるので、忙しいことです。

この橋のあたりはヤナギの風倒が多く、荒んだ景色ですが、春にはヌメリスギテケモドキ秋にはナラタケが大発生したりします。早春のミズバショウも美しい眺めです。

